

以下は南山大学ボランティアサークルが学園祭（11/3～6）で東日本大震災に関する展示を行った際、ご来場された方から頂いたメッセージや部員からのメッセージを原文のまままとめたものです。

- ・ 私は学校でボランティア活動をしています。夏休みに福島県を訪れたとき、ふるさとのことをとても大切に思っているのを感じました。これからも継続的な支援を続けたいです。（高校2年）
- ・ どんな困難な時でも必ず明るい未来が開けてくるよ。自信をもって前へ進もう。
- ・ 名古屋から応援しています。1日も早い復興を祈っています！
- ・ 地しん、津波でとても大へんだと思います。けれども、人生をあきらめないでがんばってください。ぼくもできるだけのことをして、応援します。（小学5年）
- ・ 被災地の子どもたちの声をみて、ニュースで報道されている内容よりずっと子どもたちは心を痛めているのだと感じました。被害を受けていない地域の私たちができることは何なのかすごく考えさせられました。募金をすることも、今被災地に行って支援をすることも、もちろん大事だと思いますが、それを長期的に続けていくことが、今後より重要になってくると思います。まず、今自分ができるところを見つけ行動することから始めたいと思います。（大学2年）
- ・ 頑張って今を必死に生きている人に頑張れ!!とは言えないけど、きっといい未来はくるから、それまでみんなで耐え抜いて。（大学2年）
- ・ 震災に負けない子どもたちを見て、逆に自分のはげまされています。5月に石巻市雄勝地区にボランティアに行きましたが、今後も日本の仲間として応援していきます。
- ・ 愛知から祈っています。
- ・ 被災地の子どもたちが元気でいてくれると私もとても元気になれる。もっともっと元気になれるようになるといいと思います。
- ・ 早く外で楽しく遊べるようになればいいね。（26歳女性）
 - ・ 現地に行く時間はないけれど、“何か”できることをしていくことを“心”に秘めていきます。その“何か”を探し、応援します。（27歳男性）
- ・ 震災がおきたとき、何が起きているかよくわからなかったです。しかし、東北の人々は、とてもつらい思いをしていたと思います。少しでもいいので愛知から応援しています！早くも暮らしに戻ってほしいと願っています！
- ・ **Wake up! TOHOKU!!**
- ・ 今は大変かもしれないけれど希望をもって生きてほしいです。
- ・ 1日でもはやい復興を望んでいます！
- ・ 明日は明日の風が吹く。世界中が祈っています。
- ・ 被災地の子どもたちの声を読んで、本当に大変な思いをして、現在もまだ沢山のことを我慢しているはずなのに、前向きに考えてる子が多いことに正直驚きました。でも最初

から強い気持ちを持っていたわけではないと思うと、無理をしている子も多いのではないかなと思います。そんな子どもたちに一体私たちは何をしてあげられるのか、子どもたちの負担を減らすためにできることは何か、現地にいる大人だけでなく私たちにもできることをしたいと心から思います。

- ・ 初めのうちは悲しみの声しかなかったけど、だんだん前向きにがんばろう！！っていう声が増えてきた気がします。
- ・ まだまだ辛い状況の中で、マイナスな感情を溜め込んではいないかな？とも心配になるけど、震災があったからこそ気付けた人の温かさもあると思うし、1日でも早い復興へと希望を持ってもらえるよう、精一杯応援も支援もしていきたいです。(大学2年)
- ・ 今の現状や、未来についての受け止め方は、本当に人それぞれだと思いました。「負けてられない、頑張ろう！」と思っている人もいれば、「これからどうなるんだろう」と毎日不安に過ごしている人もいて、それは子どもだからとか大人だからとかは関係なく、同じように震災の被害を受けた人として色々な思いを抱えているんだなと思いました。そして、未来をつくっていく子どもたちのために、一つずつ、少しずつでもいいから、何かしないといけないんだと思いました。(大学2年)
- ・ 震災を経験した子どもたちの"いつまでも負けていられない！"という声に自分の方が励まされました。私も"今の自分にできること"を常に見つけて実践していきたいです。(大学2年)
- ・ 日本全体が震災からの復興を応援しています。東北がんばれ！(大学1年)
- ・ 復興の鍵は何より被災者の声を聞くことにあると思う。わたしたちはより耳を傾けて、課題や声にならない声をくみ取っていかなければならないと思う。(大学2年)
- ・ 子どもたちは大人と同等あるいは大人以上に、地震の影響や今後の課題について感じとっていて、復興やその他の自分の保身以外のことに言及するケースが多いように思った。一方、子どもなりに恐怖やせいさんさを感じていると思うところもあったので、彼らのケアも大切であろう。

私は、子どもたちが現状や課題を見つめ、復興をねがっていることについて、とても尊重してあげないといけないし、彼らにこそ教育のチャンスを与えてあげるべきだと思う。今回の災害を教訓に将来の被害を減らすことは確実に行われるべきであるが、彼らのような純粋な心を持った人々が、各方面でこうした対策に貢献できる機会が求められるためである。

われわれ大人のすべきことは、まず子どもたちの平和の確保、次に教育である。そしてもちろん、われわれ自身もこの震災を忘れず、復興をまではもちろん、その後もサポートしていくことが望まれる。

子どもたちには、こわかったことは思い出させないように、友だちと遊んだり、本を読んだり、勉強に励んだりして、元気に過ごしてほしい。また、勉学は、がんばってほしい。そうしたら、きっとよい人生になっていくと伝えたい。(大学4年)

- 『子どもの目 子どもの声』のページを読んで、子どもの前向きさと、ボランティアの方や復興を応援している世界中の方への感謝に驚きました。また、子どもなのに政府への不満や意見があり現地の方の不安が常に消えないことに気がきました。

この地震によって子どもが子どもらしくなくなった気がします。1日も早く笑顔あふれる東北になることを応援します。(大学1年)
- 物資面、環境面で街が回復しても、被災した子どもたちの心の傷が完全に癒えることは決してないだろう。そう考えると胸が痛む。彼らの笑顔を守る為に、一人一人自分ができることを考え、無理をするのではなく、努力することが大切だと思う。(大学2年)
- 以前、私はテレビで「優秀な国民 劣等政府」という言葉を耳にしました。被災地の子供のメッセージを見ると、「堤防を作ってほしい」「国民の意見を聞いてほしい」という政府への言葉がある中で、ボランティアへの感謝の気持ち、「恩返ししたい」という言葉がありました。

私は、一人の国民として、被災地の方々の力になれるよう、活動していきたいと思いません。

優秀な国民、皆が力を一つに合わせて、復興にむけていきましょう。(大学3年)
- 今の子供たちは、本当によく考えている。これが一番強く思いました。私は、実際に被災したわけではないので、その瞬間がどういったものだったか、想像の域をできませんが、未曾有の大災害であったのは間違いありません。しかし、ここに載っている多くの声は、他人を思いやり、現状に向き合い、震災を乗り越えようとする強い意思がみてとれます。次世代を担う子供たちには1つの大きな試練となります。これを乗り越えたとき、個人として、また国として成長できるのではと思います。自分たちにできることは、微力かもしれませんが、少しずつ取り組んでいきたいと思えます。(大学2年)
- 「子どもたちの作文」や「子どもたちの声」を読ませていただいて、「こんなに心の声が見えるカタチになっているのに！」「ニュースや新聞はなんて情報が少ないんだろう」と、考えさせられました。前向きで、そして「復興するんだ！」という意思がストレートに伝わりました。私にもこの「心」を「願い」を隣の誰かに伝えて、どんどん数が増えていったなら、制度や仕組みを変えることができるほどの「力」になれる、なると信じています。今日、私が皆様の「心」を「読む」ことができたのも一つの「縁」。出来る事を少しでも見つけるお力ぞえできたらと思えます。(大学2年)
- 外で遊びたい、友達に会いたい、地元に戻りたい、など、被災した子供たちは今まで普通にやってきて、あたり前に過ごしてきた生活を送れない状況でたくさん我慢をしいられているのだらうと思えました。それだけでなく予震や原発への不安も感じているだろうし、子供たちは表にださない、だせない様々な思いを抱えて生活しているのではないかと思います。町を元気にしたい、負けてなどいられない、頑張っていきたい、と前向きな気持ちを持っていることを知り、私もちょっとしたことでよくよしてられないと勇気付けられたし、この子供たちが担っていく将来、未来のために、単純な考えだけ

早く被災地が復興すればいいのになと感じました。子供たちの笑顔だけは守っていかなくてはならないと思います。(大学2年)

- とてもつらい思いをしてきたはずの子供たちの声の中に、世界中から届く支援や、ボランティアに対する感謝をあらわす言葉が見られる。顔も名前も知らない人からの助けが、被災した人を大きく支えているということだろう。私たちになにができるのだろうか。遠いからボランティアに行けないだとか、私たちが決めつけるのはおかしいことだと思う。やろうと思えば、いくらでも方法はある。(大学2年)
- 原発や仮設住宅の問題を解決して1日でも早く安心して暮らせるように、政府は取り組むべきだと思った。(大学1年)
- テレビや新聞の報道をとおして、たくさんの目をつぶりたくなるような光景を見て、その悲惨さに胸をしめつけられたと同時に、一体自分には何ができるのだろうか、ずっと考えていました。しかし被災地の子供たちの、自分たちの街を自分たちの手で復興させていくんだ、というとても力強いメッセージを讀み、私たちはこういう気持ちを支えていかなければならないと強く思いました。これから新しい街を創っていく子供たちを支援することでほんの少しでも役に立てれば、と思っています。(大学3年)
- 被災地の人達の笑顔の裏には、たくさんの思い、気持ちがある。それを愛知にいる私が理解できる訳はないけど、少しでも理解できるようになりたいと心から思う。自分たちだけ毎日食事を美味しく食べ、ゆっくりお風呂に入ってるような気がして心が痛みます。この震災を忘れてはいけないと思っています、どうしてもこの気持ちが薄れていってしまします。今後のためにも震災を忘れず、自分ができることをやっていきたいと思いません。子供が元気に遊べる環境に戻ればと強く願っています。(大学4年)
- 今はとても大変なときだけど乗り越えられない苦難はない。生きていれば必ずいいことがあるので、今を一生懸命生きてください。(社会人)
- 1日でも早く安心して暮らせるよう、ぼくらも少しずつ何かしていきます。(社会人)
- みんな応援してます。これからももちろん応援していくので頑張ってください。(社会人)
- つらい時、泣いていいよ。甘えられる人を見つけたら、甘えていいよ。…だけど本当につらい時涙も出ない…。何も思えないのかもしれないね。泣ける日が来たら泣いてもいいよ。